

令和6年度小児・AYA世代がん診療に関する医療機関実態調査結果

1 調査概要

小児がん患者さんとそのご家族及び小児がん経験者の方が可能な限り慣れ親しんだ地域で治療や支援、長期フォローアップが受けられる環境の整備を検討していくための基礎資料として、県内の医療体制の実態を把握するための定期的な情報の確認と更新として、平成27年度、平成29年度、令和元年度、令和4年度の計4回にわたり調査を実施した。

本調査は第5回目の調査となり、病院28施設、診療所14施設に調査を実施した。

なお、調査結果については、資料1が病院、資料2が診療所の結果である。

(1) 調査目的

県内の小児がん・AYA世代診療における医療体制の実態把握

(2) 調査対象

病院28施設

別添対象医療機関一覧のとおり

※下記のいずれかに該当する県内医療機関

- 日本小児科学会専門医研修施設
- 日本小児血液・がん学会研修施設
- 千葉小児整形外科グループ施設
- TCCSG 参加施設
- 医療情報ネット「ナビィ」/千葉県/キーワード検索/小児悪性腫瘍(小児がん) 該当医療機関
- 令和4年度調査の対象で、小児腫瘍科を標榜している施設

(3) 調査期間

令和7年2月

(4) 調査方法

郵送またはメールにより回収

【 病 院 】

2 調査結果

【回答状況】 21施設 回答率75%（※各設問に対する公開数は下記のとおり）

	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
施設名を含め公開	12	6	6	19	6	6	6	6	6	19
施設名を除き公開	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

【問3 小児がん診療体制について】

- 28施設のうち、調査対象とした疾患について、1つでも診断、治療を行っているとは回答した医療機関は12施設であった（別紙1）。残る医療機関については、「小児がん診療は行っていない」、「疑い患者は診察後、他院へ紹介している」との回答であった。
- 調査対象とした疾患以外で「その他」として挙げられた病名は、胸膜肺芽腫、混合性胚細胞腫瘍、ユーイング肉腫、卵巣悪性奇形腫、胃がん、大腸がん、滑膜肉腫などの非円形細胞軟部肉腫、菌状息肉腫等であった。
- 主たる診療科としては、小児科、小児外科、血液腫瘍科等であった。

【問4・5 療養環境及び患者・家族支援について】

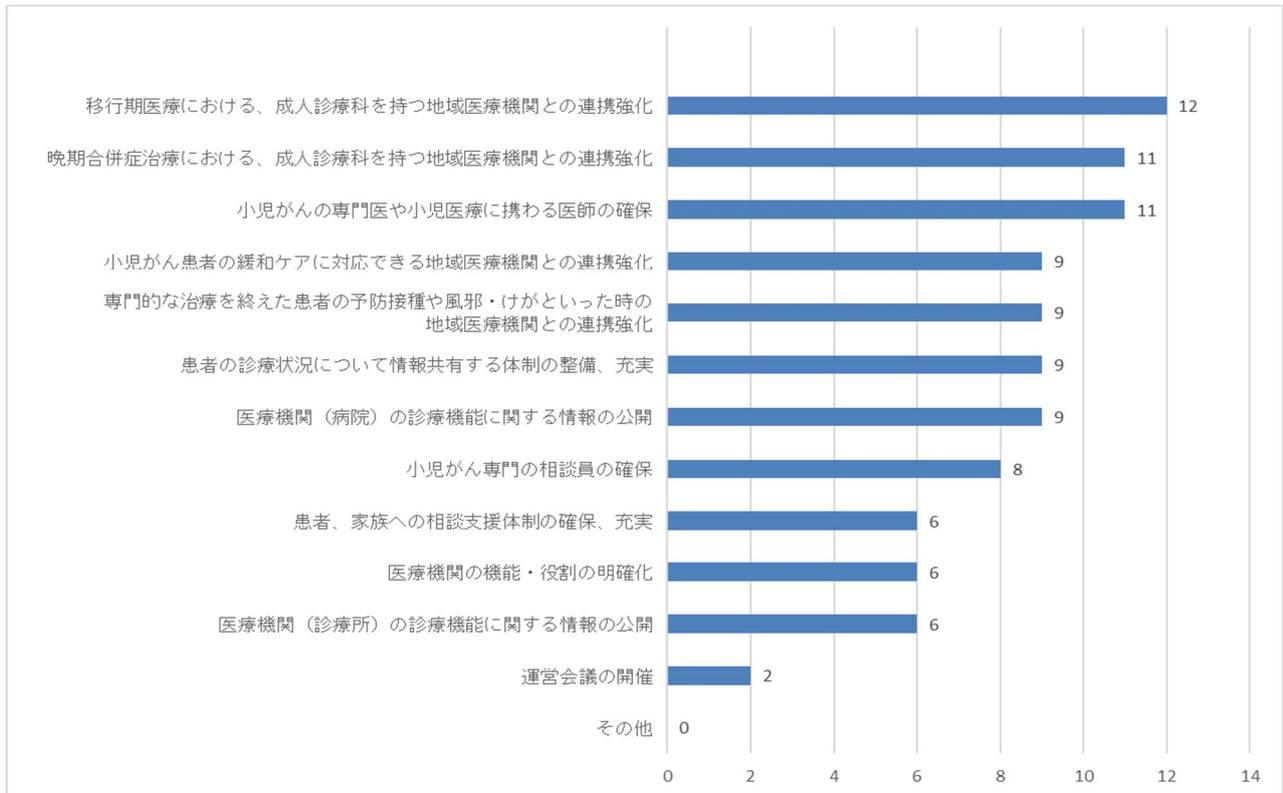
- 診断及び治療を行っているとは回答した医療機関6施設の療養環境及び患者・家族支援状況の回答を一覧としてまとめた（別紙2）。
- 家族等の宿泊施設が活用できる医療機関は2施設であった。

【問6 地域との医療連携について】

- 専門的な治療を終えた患者の予防接種や風邪・けがといった時の診療について、自施設で何らかの診療が可能と回答した20施設のうち、予防接種の対応施設は17施設、風邪等の内科的症状の診療施設は16施設、けが等外科的治療の対応施設は11施設であった。その他歯科治療等は7施設、小児期から成人期への移行期医療は5施設、成人期における晩期合併症治療は3施設が診療可能と回答している（別紙3）。

【 病 院 】

【問6 地域医療機関と連携した小児がん診療を行うために必要と思われるもの】（複数回答可）



○最も多かったのは「移行期医療における成人診療科を持つ地域医療機関との連携強化」12件、
ついで「晩期合併症治療における、成人診療科を持つ地域医療機関との連携強化」「小児がんの
専門医や小児医療に携わる医師の確保」がそれぞれ11件であった。

【問7 地域との医療提携（緩和ケア含む在宅医療）について】

※回答は小児がん診療（診断、治療）を行っている医療機関（6施設）のみ

○専門的な治療中の、緩和ケア提供含む在宅医療に対応している地域医療機関との連携について、
上記6施設のうち「自院が所在する市町村」5施設、「隣接する市町村」4施設、「左記以外の
県内市町村」5施設で、「連携実績がある、もしくは連携できる可能性がある」と把握している医
療機関がある」との回答であった。

【問8 医療者による入院後等の復学支援について】

※回答は小児がん診療（診断、治療）を行っている医療機関（6施設）のみ

○上記6施設のうち5施設で、小児がん患者の入院治療を実施している。

医療者による入退院後等の復学支援について、各施設の回答一覧は（別紙4）のとおり。

【 病 院 】

【問9 治療終了後のフォローアップ状況について】

※回答は小児がん診療（診断、治療）を行っている医療機関（6施設）のみ

- 上記6施設のうち5施設で、小児がん患者の長期フォローアップ診療を行っている。
治療終了後のフォローアップの状況について、各施設の回答一覧は（別紙5）のとおり。

【問10 小児がん患者の成人診療科への移行支援の状況について】

- 小児がん診療を行っている医療機関（6施設）のうち、4施設において小児がん患者の成人診療科への移行支援を行っている。
移行支援の状況について、各施設の回答一覧は（別紙6）のとおり。

【問11 妊孕性温存療法について】

※回答は小児がん診療（診断、治療）を行っている医療機関（6施設）のみ

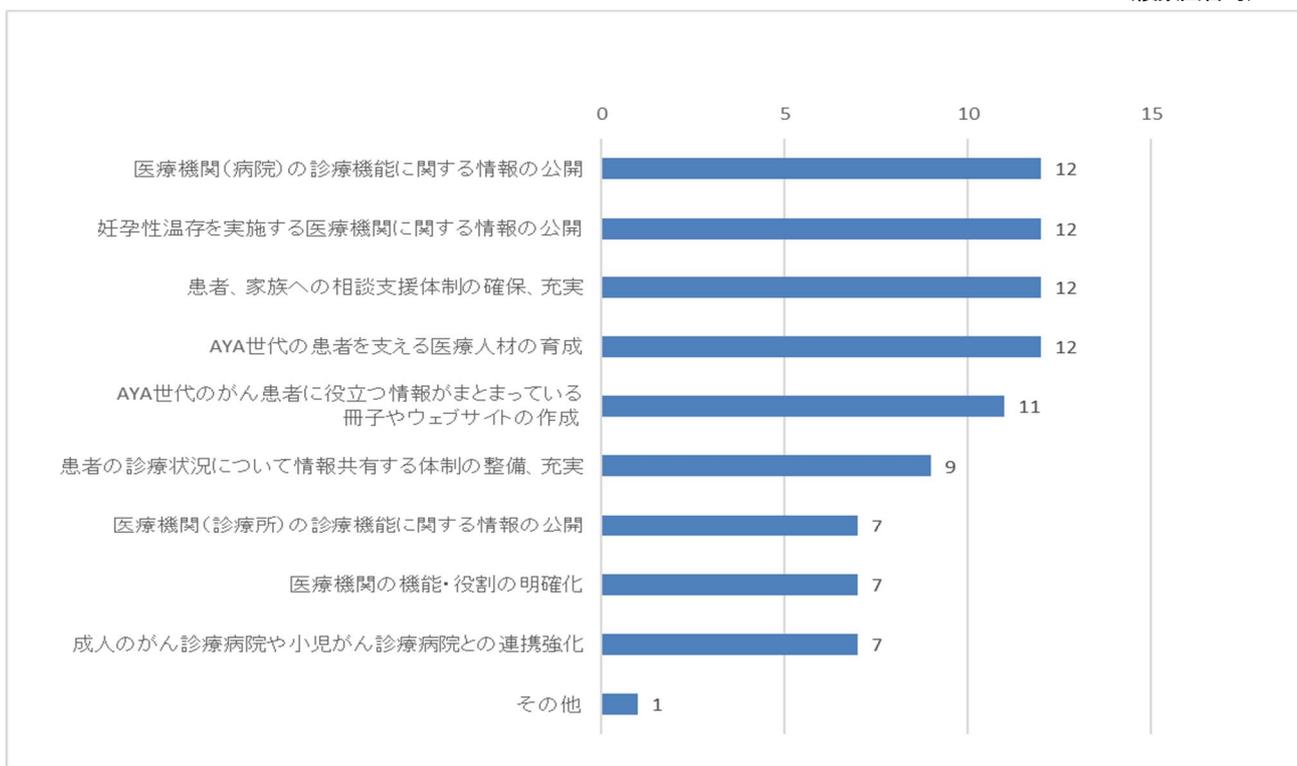
- 上記6施設すべてで、妊孕性が低下する可能性がある、がん治療を実施している。
妊孕性温存療法について、各施設の回答一覧は（別紙7）のとおり。

【問12 AYA世代（15歳以上の思春期・若年成人世代）のがん診療について】

- 20施設のうち、「AYA世代のがん診療（診断、治療）を行っている」と回答した医療機関は15施設であった（別紙8）。残る医療機関については、「AYA世代のがん診断は行い、治療については専門医へ紹介している」が1施設、「AYA世代のがん診療（診断、治療）は行っていない」が4施設であった。

【問12 地域医療と連携したAYA世代がん患者の診療を行うために必要と思われるもの】

（複数回答可）



【 病 院 】

○最も多かったのは「医療機関（病院）の診療機能に関する情報の公開」「妊孕性温存を実施する医療機関に関する情報の公開」「患者、家族への相談支援体制の確保、充実」「AYA世代の患者を支える医療人材の育成」がそれぞれ12件、次いで「AYA世代のがん患者に役立つ情報がまとまっている冊子やウェブサイトの作成」11件であった。

3 調査結果の公表

県ホームページにて公表する